

なんYA!かんYA!

「ホンマニ！」も今号で20号、甲賀市図書館も今年で20年を迎えました。そこで今回は20にまつわるエトセトラを集めてみました。知っていることあるかな？

20

第20回本屋大賞(2023年)は『汝、星のごとく』 風良ゆう

ちなみに第21回(2024年)は滋賀が舞台の『成瀬は天下を取りにいく』だよ

2024年開催のパリ五輪で日本は金メダルを20個獲得！

オリンピック出場だけでもすごいのに、さらにメダルまで！日本選手団お疲れさまでした！

20年前の2004年、イチローが84年ぶりにシーズン歴代最多安打記録を更新！

今は日本で後進の指導にあたっているそうだよ

成人が20歳と民法で定められたのは明治29年。2022年4月から成人は18歳になったよ

お酒や煙草は今でも20歳になってから

トショブラ♥ ～郷土資料室「忍」～

自分の住んでいる地域について調べたいとき、文化庁認定の日本遺産である「忍者」について知りたいとき、あなたはどこに行きますか？

そんな時にピッタリの資料室が甲南図書交流館にオープンしました！甲賀市の5つの町のことを調べられる本、忍者・忍術に関係する本など、約1700冊の本や雑誌があなたを待っています。こどもからおとなまで誰でも申込制で入室できます。地元のことを調べようと思ったらココ！自分の住んでいるこの甲賀市について知識を深めてみませんか？

発行：甲賀市図書館

水口図書館 : 63-7400 土山図書館 : 66-1056

甲賀図書情報館 : 88-7246 甲南図書交流館 : 86-1504

信楽図書館 : 82-0320

ホームページ : <https://lib.city.koka.lg.jp/>

Book guide for Young Adult

甲賀市図書館ヤングアダルト通信

ホンマニ! HONMANTA!

vol.20

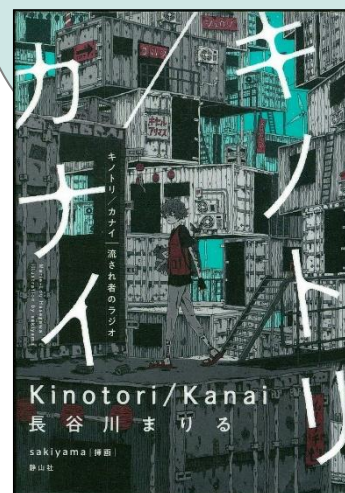
2024. Winter -Spring

Koka City Library

ヤングアダルト (Young Adult) とは、中学生・高校生を中心とした大人と子どもの境目の世代「若い大人」「大人になりつつある人」という意味です。

甲賀市図書館ヤングアダルト通信『ホンマニ!』では、ヤングアダルト世代のあなたに、おすすめの本を紹介します。

おすすめ
この1冊



★あの娘の歌声は、君にはどんな風に聴こえただろうか

『キノトリ／カナイ』

長谷川まりる／著 静山社

ガラクタを積み上げたような世界で、ラジオからは今日も人気歌手メイの歌が響き渡っていた……。時は近未来、混沌とした海上都市に暮らす人々の階級の差は激しい。配達屋のキューも下層地区であえぐ毎日を過ごしていたが、荷物の届け間違いがきっかけで、大きな事件に巻き込まれてしまう。

登場人物の誰もが痛みをかかえていて、ここではないどこかへ、自分が変わる場所へ飛び出したいという切実な思いが伝わってくる。でも、それと同時に「自分が今いる場所で生きることそんなに悪くはないよ」とささやいてくれている。

この作者の文章は、荒廃した街に置き去りにされそうな人たちの耳元で、丁寧に、ゆっくりと鳴り響いていく「歌声」のようだ。

●あなたも迷える子羊？

『「ロッチと子羊」で学ぶ中高生のための哲学入門』

小川仁志・「ロッチと子羊」NHK制作班／著 ミネルヴァ書房



現在、友だちとの関係、部活動や勉強、自分の生き方など、さまざまな悩みをかかえていますか？

NHKのエテレで放送されていた番組「ロッチと子羊」が書籍化され、世界の有名な哲学者があなたにヒントを与えてくれます。本書の「哲学プラクティス」にある15の例題を実践し視点を変えてみませんか。解決の糸口が見えてくるかもしれません。

一人で悩まなくても大丈夫。なぜなら、あなたの周りには迷える子羊の仲間がいっぱいですから。

●ハチドリをきいてみませんか

『ハチドリのはとしずく』

辻信一／監修 光文社



森の火事を消すために一滴の水を運び続けるハチドリ。南米アンデス地方に伝わるこのお話に感銘を受けた辻信一さんは、燃えている森を温暖化が進む地球だと捉えた。

一人でも多くの人に伝えたい思いでできたのがこの一冊。環境問題を考える人たちの「気張らず、できることからやっていきたいな」の言葉はまさにハチドリの行い。私たち一人一人の小さな力がやがて大きな力となって、地球を冷やすことができる。ハチドリの姿がそう信じさせてくれる。

●一見「つまらない」と思われがちな、じつはかしこい生存戦略

『ナマケモノは、なぜ怠けるのか？』

稲垣栄洋／著 筑摩書房



ナマケモノはどうしてゆっくり動くという進化をしたのか、その理由をあなたは考えたことはありますか？その進化には、きちんとしたワケがあるのです。

ナメクジ、ナマケモノ、ゴキブリなど、「みっともない」、「にぶい」、「ぱっとしない」、「こまった」など、一言でいえば「つまらない」と思われがちな生き物たちの、あっと驚く生存戦略が明らかになります。いつも脇役な生き物たちのすごさを実感すると共に、私たち人間も「そのままでもいいんだよ」と肯定してくれる、そんな一冊です。

●型にはまらない6人の共同生活に元気をもらえる！

『みかんファミリー』

椰月美智子／著 講談社



主人公の美琴は母と祖母の三人暮らし。突然の母の気まぐれで母の友である朱美さん、朱美さんの子どもと孫の六人で共同生活をするに。しかも、朱美さんの孫は美琴の同級生で隣のクラスのちょっと変わった子だった。

突如、家族となった六人の生活は紆余曲折しながらも互いを思いやる柔らかな連帯に変化していく。この六人の型にはまらない生活は読者に前向きに生きるパワーを与えてくれる。なぜ「みかんファミリー」なのかは読んだ人だけがわかるお楽しみ。

●人生を楽しめ！eスポーツが熱い！

『僕たちがゲームに人生を賭ける理由』

涌井学／著 小学館



SNSでゲーム大会の告知投稿を見て、会場に集まったのはゲーム動画配信者の高校生・神谷かなと就活中の大学生・永倉水芭蕉の二人だけだった。大会主催者の高校生・瀧口一路とチームを組み、三人はゲームのプレイ動画配信を始める。そして、全国高校対抗eスポーツ大会「STAGE:0」での全国制覇を目指し……。

自分の将来に迷ったり、人と関わるのが苦手だったり、悩みを持ちながらもやりたいことや本気になれるものを大切にしたいくなる青春小説。

●借り物でない自分の言葉をもつことの大切さ

『あなたの言葉を』

辻村深月／著 毎日新聞出版



この作品は、「毎日小学生新聞」に連載されたものです。著者の辻村深月さんが、学校生活、出会いと別れ、読むこと、書くことなどについて自身の体験をもとに、何気ない「言葉」がどのように人の心に響き、関係を変えるのかを書いていきます。

小さな一言でも、相手にとっては大きな力になったり、心に残る言葉になったりすることがあります。読んでいると、自分の言葉が誰かの心にどう響いているかを考えさせられ、言葉の重みを感じます。優しく丁寧な文章で綴られ、心がほんのり温くなる一冊です。